下関市立美術館
「潮流」
Shimonoseki City Art Museum
No.137/Summer.2022

Introduction to The Exhibition
展覧会紹介

所蔵品展 158

海と美術

6月18日(土)～8月14日(日)

美しいばかりでなく、日々私たちに恵みをもたらし、時に畏怖の対象でもある「海」。「海」と「美術」の関係という、古くて新しいテーマに目を向けます。源平合戦の舞台となった海や、平家蟹などユニークな生きものも登場する、下関だけの展覧会です。

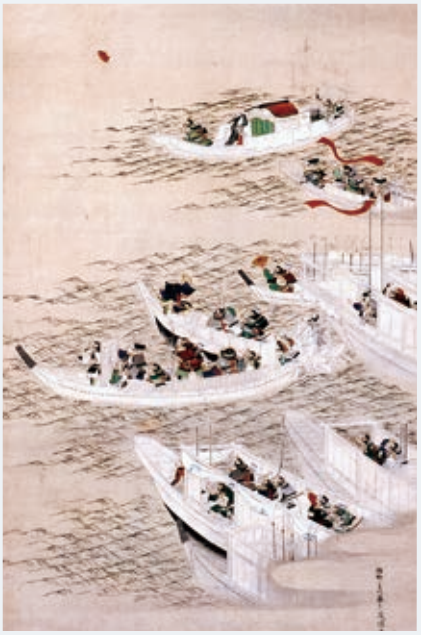
波の描写に注目

線を重ねて波を描き出す手法は、古くは平安期の絵巻の中にも見られるもの。屋島の戦いを描く長沢栄州の《源平合戦・那須与一図》でも、人間たちの物語を、波の描写がドラマチックに演出しています。一方、竹内栖鳳の《平潮》は、明るい色彩の広がりで、平和でゆったりとした海を捉えています。

海の生き物エトセトラ

高島北海が描いた《魚介下図》。第八回文展出品作に先立って制作された下図で、さまざまな種類の魚、貝、エビ、たこなどが、勢いのある筆使いで描かれています。ざっと描いたように見えますが、海響館の職員の方に見てもらったところ、「ハコフグに似ているが、背中に棘があるからイトマキフグ」「舵鰭（かじびれ）が波打っておらず、丸みを帯びているのはウシマンボウ」など、思いの外の精度で種類が特定できることが分かりました。※ 自然科学の専門家でもあった画家ならではの観察力と探求心で、この画題に向き合ったのではないでしょうか。

絵画、版画、彫刻、工芸などの40点あまりの作品で、海と美術の多様な広がりをご紹介します。



上：長沢栄州《源平合戦・那須与一図》（部分）
下：宮崎進《テントの中》1967年

高島北海《魚介下図》大正3年（1914）（部分）

生誕100年　宮崎進（しん）の道程

２０２２年に生誕100年となる、山口県徳山市（現周南市）出身の画家・宮崎進（１９２２-２０１８）。シベリア抑留体験で「人間のたくましい生と、はかない死という両極」を経験した画家は、人間の存在を絵筆を通して確かめるような創作を続けました。代表作の旅芸人シリーズなどから約20点をご紹介します。

※久志本鉄平「コラム 水族館スタッフから見た《魚介下図》」『特別展「高島北海没後90年記念　自然の秘密をさぐる」ブックレット』（２０２１年）より

所蔵品展

休館日：月曜日（祝日の７月18日は開館）　観覧料：一般 210円（160円）・大学生 100（80円）
※（）内は、20名以上の団体料金　※18歳以下の方、高等学校、中等教育学校、特別支援学校に在学の方は観覧料免除　※下関市と北九州市在住の方で、65歳以上の方は半額免除

特別展 山水画と風景画のあいだ
―真景図の近代―

2022年 8月20日㊏～10月16日㊐
月曜休館（祝日の9月19日、10月10日は開館）
観覧料：一　般　1,200円（960円）
大学生　　900円（720円）
※（　）内は、20名以上の団体料金。18歳以下の方、高等学校、中等教育学校、特別支援学校に在学の生徒は無料。
下関市内在住の65歳以上の方は半額。

日本の「風景画」はいつ生まれたのでしょうか。私たちが思い浮かべるような風景画が描かれるようになるのは、近代になってからであり、長らく中国からもたらされた山水画こそが美術の主流でした。本展では、18世紀末から20世紀初頭の日本の風景表現のうつり変わりを通して、日本人の風景を見る眼がいかに確立してきたのか、以下の3部に分けて展示します。

1. 真景図のはじまり

古来、日本において山は祈りの対象でした。そこには神聖なイメージが重ねられていたのです。中世には中国の影響で山水画が成立し、美術の主要なジャンルとなります。江戸時代になると、街道が整備され、多くの人が旅を楽しむようになり、各地の名所を描く「名所絵」も描かれます。一方、全国の文人画家たちは実景を描く「真景図」を描くようになり、これが日本の風景画の先駆となりました。さらにこの頃から、西洋の客観的な自然の見方が入ってくるようになります。

歌川広重の浮世絵の大胆なデザインや、文人画を代表する浦上玉堂や田能村竹田の描く作品も、風景画の発展に大きな影響を与えました。江戸時代中期には、オランダなどの西洋の影響から、洋風画が登場します。司馬江漢や亜欧堂田善の風景表現は、当時の日本の景観や、人々の生き生きとした生活を伝えてくれます。

2. 下関と長州の風景表現

下関が誇る近代日本画の父、狩野芳崖の馬関真景図巻は、180年前の下関を描いた絵巻で全長6メートルを超え圧巻です。また明治から大正にかけて活躍した下関ゆかりの高島北海は、伝統的な山水画を描きながら地質学や森林学を学び、風景を客観的な写生体で描きました。この展覧会では、北海を西洋近代の風景画と日本の山水画とのターニングポイントに位置づけ、彼の迫力ある山岳表現を展示します。

3. 近代風景画の成立

さらに明治以降、苦心して油彩画技法を習得した高橋由一や、西洋で学んだ洋画家たちによる本格的な油絵の風景画や、浮世絵の流れを汲む新版画、近代の日本画家が追い求めた美しい日本の景色の数々によって、日本に風景画が定着する過程を示します。

＊

なかなか外出が難しい昨今、今よりも旅が困難であった時代の人々が魅了された美しい日本の風景を、旅をするような気分で楽しんでいただきたいと思います。

展覧会では、文人画・洋風画・浮世絵・日本画・洋画などジャンル・流派を越えて、所蔵品約25点を含めた約100点の作品を展観します。

（学芸員　藪田淳子）

主な出品予定作家（本文中に図版掲載のない）
亜欧堂田善、浦上玉堂、頼山陽、田能村竹田、田能村直入、五雲亭貞秀、ワーグマン、小田海僊、高島北海、松林桂月、吉田博、横山大観、菱田春草、竹内栖鳳、冨田溪仙、吉田初三郎、和田英作、岸田劉生、藤田嗣治、川瀬巴水ほか

歌川広重《東海道五十三次之内　箱根 湖水図》
天保4-5年(1833-34)　個人蔵

司馬江漢《七里ヶ浜図》
江戸時代後期　大和文華館※

狩野芳崖《月夜山水図》
嘉永2年(1849)頃以降　山口県立美術館※

狩野芳崖《馬関真景図巻》部分図　天保13年(1842)　個人蔵(下関市立美術館寄託)

高橋由一《琴平山遠望図》明治14年(1881)　金刀比羅宮

小林清親《今戸橋月夜茶亭》
明治10年(1877)頃　兵庫県立美術館

織田一磨《大阪風景 道頓堀》
大正6年(1917)　兵庫県立美術館

川合玉堂《溪村春麓図》
明治40年(1907)　広島県立美術館※

※は展示替予定作品

連続講演会「風景画の東西」

講師　宮下 規久朗 氏（美術史家・神戸大学大学院人文学研究科教授）

（1）8月27日（土）西洋の風景画の成立と展開
（2）8月28日（日）東洋と現代の自然表現

申込方法　要事前申込、先着順。下関市立美術館（TEL・083-245-4131）まで「1. 参加日　2. 氏名　3. 連絡先」をお伝えください。
※聴講無料。ただし当日の観覧受付が必要です。詳しくは美術館ホームページをご覧ください。

講師略歴：1963年名古屋市生まれ。東京大学文学部美術史学科卒業、同大学院修了。兵庫県立近代美術館学芸員、東京都現代美術館学芸員などを経て2013年より現職。著書『カラヴァッジョー聖性とヴィジョン』でサントリー学芸賞受賞。他の著書に、『食べる西洋美術史』『美術の力』『モチーフで読む美術史』『そのとき、西洋では』『聖母の美術全史』など多数。

おしらせ

■SNS発信中
美術館では、この春からYouTubeとInstagramを開設しました。これからの展覧会情報など、情報発信をしていきますので、ぜひご覧ください。

■令和4年度造形教室
A ステンシルトートバッグづくり
令和4年7月18日(月・祝)
親子の部／午前10時～12時
一般の部／午後1時30分～3時30分
会場：下関市立美術館　講堂
講師：冨田 一男 氏(造形作家)
参加費：一人500円
対象・定員：親子の部／小学生以下の方とその保護者・10組、一般の部／中学生以上の方・10名(いずれも先着順)

B ぴかぴかの泥団子をつくろう
(1)令和4年7月23日(土)、(2)7月24日(日)
各日午前10時～午後3時　※1日完結講座
会場：下関市立美術館　造形室ほか
講師：原井 輝明 氏(宇部フロンティア大学短期大学部 保育学科 准教授)
参加費：子ども一人につき500円
持ち物：丸口のガラス瓶、ビニール袋
対象・定員：各日10組(先着順)、小学生以下の方(未就学児の方は保護者の付添が必要)

予告　詳細は決まり次第お知らせします。

C ミシンをつかわないトートバッグづくり
9月開催予定

D 絵画制作入門―色鉛筆と水彩で風景画を描こう
10月開催予定

申込方法(全講座共通)
下関市立美術館
(TEL.083-245-4131)まで
「1.参加日 2.氏名 3.年齢 4.連絡先」をお伝えください。

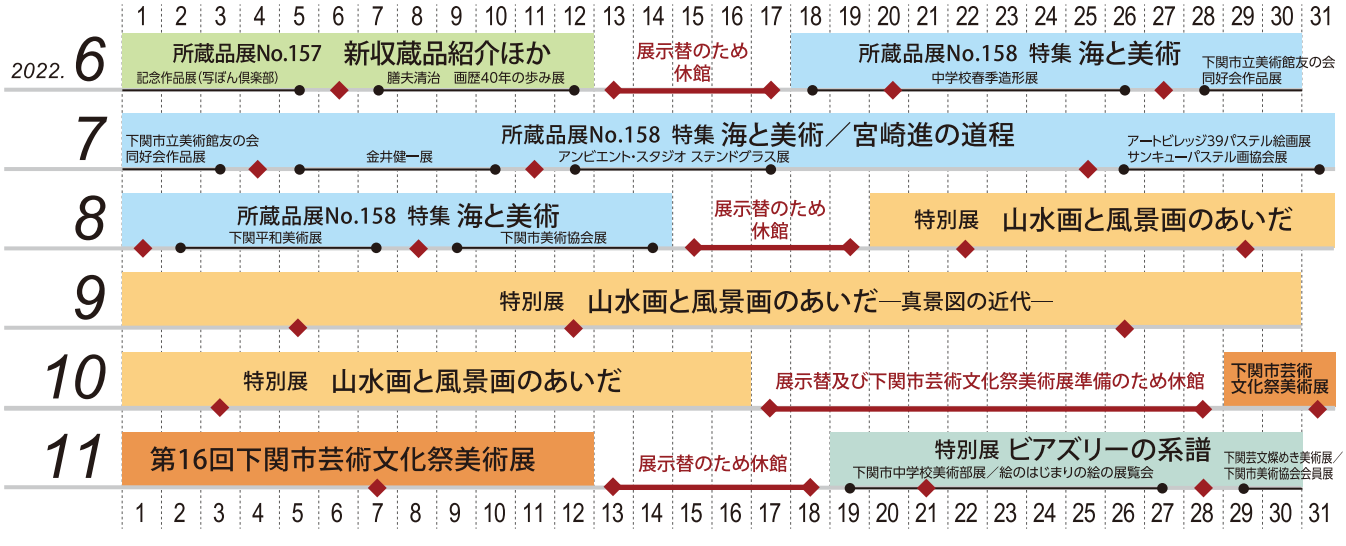
■所蔵品展スライド・トーク
所蔵品展「海と美術」展示中の作品を解説します。コロナ禍で“美術飢餓状態”の皆様、ぜひご来場ください。
6月25日(土)、8月6日(土)
各日とも午後1時～(約30分)
会場：美術館　講堂
※事前予約不要。参加無料(ただし、所蔵品展の観覧受付が必要)。
※感染症対策への協力をお願いします。参加人数が多い場合、複数回に分けて実施する可能性があります。

報告

■国際博物館の日
下関市立美術館では5月18日の国際博物館の日に合わせて、5月17日(火)～5月22日(日)期間限定でご来館いただいた方全員にオリジナルシール(非売品)をプレゼントしました。所蔵品に登場するキャラクターと、それを手描き風にアレンジした2種類です。今後も美術館のイベントに合わせて、グッズ配布を予定していますので、お楽しみに。

下関市立美術館展覧会スケジュール(2022年6月～11月)

会期・展覧会タイトルが変更になる場合があります。◆ 休館日



下関市立美術館NEWS
「潮流」137号／令和4年6月20日発行
■発行／下関市立美術館　〒752-0986下関市長府黒門東町1-1　TEL.083-245-4131
https://www.city.shimonoseki.lg.jp/site/art/
■印刷／株式会社ナカハラプリンテックス